

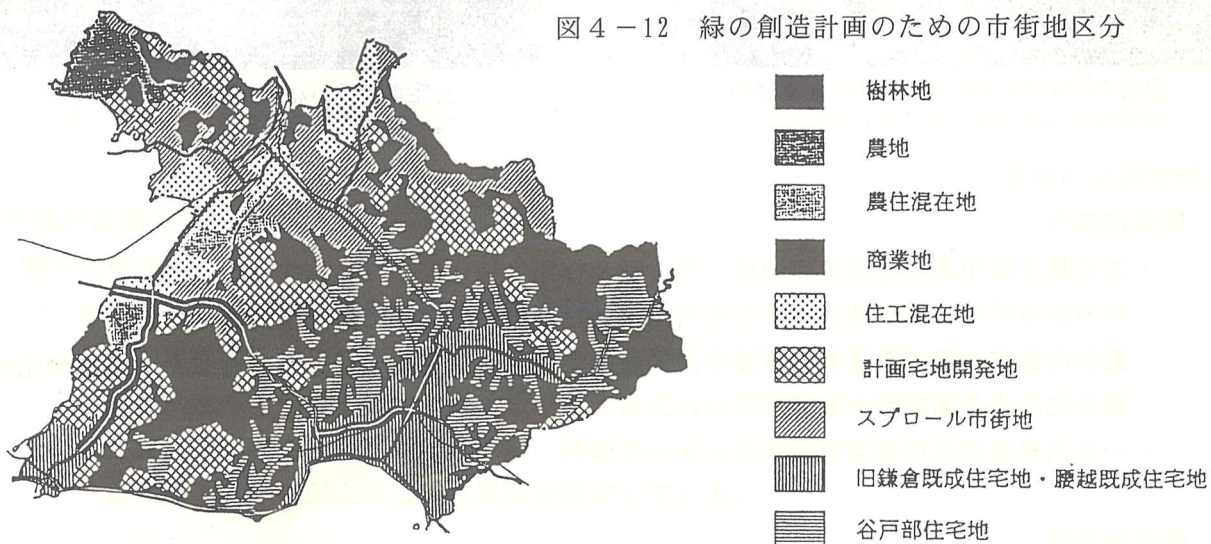
4-3 緑の創造計画

ここでは、前章のテーマ別方針に基づき、緑化の対象となる「市街地」、「公共施設」、「主な景観ポイント及び結節点」について緑の創造計画を定める。

1) 市街地の緑化

市街地の緑化では、都市マスタープランに示された次の市街地類型毎に、緑の現況と計画目標及び緑の創造の方針を定める。

図4-12 緑の創造計画のための市街地区分



(1) 谷戸部住宅地

● 現況特性

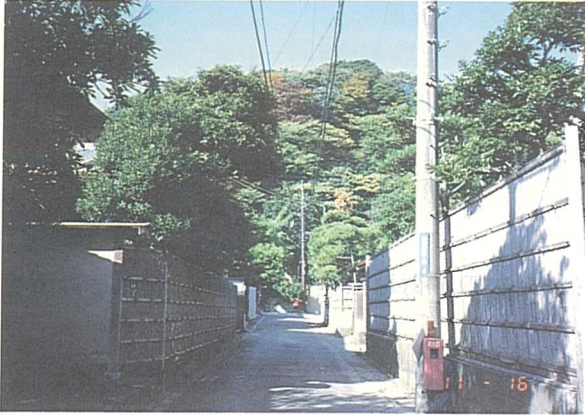
- ・主に第1種低層住居専用地域に指定されている。
- ・風致地区の指定を受けるほか、一部が歴史的風土保存区域又は歴史的風土特別保存地区の適用を受ける。
- ・谷戸に形成された鎌倉らしい雰囲気をもつ低層住宅地、敷地規模が大きく豊かな緑をもつ住宅地が多い。
- ・一部に、相続に伴う敷地の細分化や緑の減少が見られる。

● 計画目標

背景をなす丘陵の自然的景観と融和した、緑豊かな落ちつきのある住宅地の環境を維持する。

● 緑の創造の方針

- ・開発事業指導要綱に基づき敷地規模を設定し、現在の良好な環境を維持する。
- ・建物敷地の豊かな緑や垣根を保全し、道すじから樹木の間建物が見えかくれするような住宅地景観を維持する。
- ・道すじからの丘陵へのビスタを確保する。
- ・敷地の細分化が見られる場所について生垣化を推進し、道すじの緑の連続性を確保する。



住宅の緑と背後の丘陵の樹林地が重層的に眺められる環境を維持する



住宅地の豊かな緑を保全し、道すじの緑の連続性を確保する

(2) 鎌倉既成市街地

● 現況特性

- ・主に第1種中高層住居専用地域、第1種及び第2種住居地域に指定されている。
- ・戦前からの市街地、住宅の緑と細街路が結びついた趣のある路地空間をもつ。
- ・豊かな住宅の緑が見られる一方で、緑量感に乏しい市街地も見られる。また、建替や土地の細分化による緑の減少が進んでいる。
- ・一部が風致地区の指定を受ける。

● 計画目標

史跡や社寺と結びついた、鎌倉らしい緑豊かなまち並みの形成を図る。

● 緑の創造の方針

- ・社寺の緑や良好な屋敷林、生垣等を保全する。
- ・海岸線背後の住宅地については、在来樹種の植栽等により海辺の保養地・住宅地にふさわしい市街地環境を創造する。
- ・また、海岸線沿いの建築物等に対しては、周囲の風致に影響を及ぼさないよう配慮し、海に向かって開けた地域の空間構造を確保する。
- ・滑川、御谷川、佐助川、逆川、宅間川、西御門川等の親水化を図り、古都の市街地にふさわしい水辺環境を再生する。

特に滑川については、鎌倉市を代表する河川空間として、生態系の回復などを行い、地域にふさわしい良好な溪流環境を再生する。

- ・都市計画道路和田塚名越線を、東西方向の緑の景観軸として整備する。
- ・細街路を活かした、避難路ともなる歩行者空間のネットワーク化を図る。
また、社寺等の歴史的資源と結びつく街路については、石畳の整備等、古都の市街地にふさわしい環境づくりを行う。
- ・共同住宅などが増加している緑に乏しい市街地に対しては、特に接道部の緑の充実を図り、まち並みの緑の連続性を確保する。



社寺の緑や良好な屋敷林、生垣等を保全する



海辺の保養地・住宅地にふさわしい環境を創造する

(3) 丘陵の計画宅地開発地

● 現況特性

- ・ 主に第1種低層住居専用地域が指定されており、大部分が風致地区の適用を受ける。
- ・ 計画的に整備された住宅地で、整然としたまち並みが形成されている。
- ・ 緑化は進んでいるものの、緑量感のある緑をもつ住宅地は一部に限られる。
- ・ 2世代住宅化や2台駐車化に伴い、接道部の緑の連続性が低下している。
- ・ 高い擁壁の存在がまち並みの風致を阻害している。

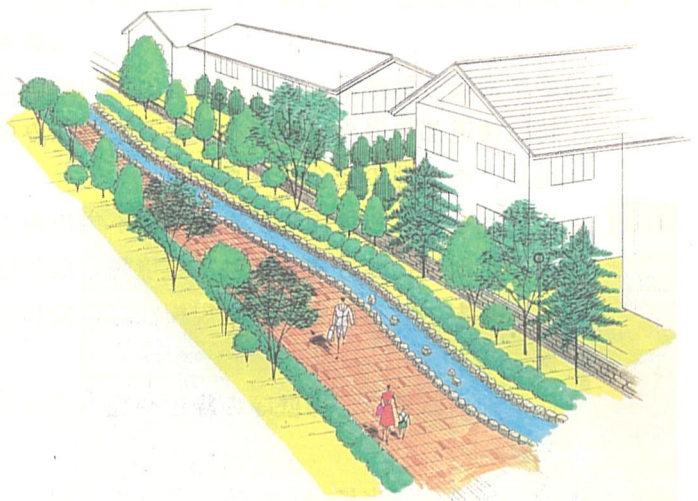
● 計画目標

整然としたまち並みの中に豊かな生活の緑をもつ、開放的な住宅地環境の形成を図る。

● 緑の創造の方針

- ・ 住宅地内の幹線道路等を利用した緑の景観軸、生態軸を創造する。

具体的には、配水地からの水を利用した緑と水辺空間をもつ歩行者路の整備や、名所となる街路樹づくり等を検討する。



- ・ 敷地規模にあわせた緑化を推進し、住宅地の全体的な緑量感と接道部の緑の連続性を高める。
- ・ 周辺の山並みへのビスタを確保する。
- ・ 石積み、擁壁に対する緑化を図り、圧迫感を和らげる。



住宅地の全体的な緑量感と、接道部の緑の連続性を高める



石積み、擁壁に対する緑化を図り、圧迫感を和らげる

(4) スプロール市街地

● 現況特性

- ・主に住居地域、第1種及び第2種住居地域が指定されている。
- ・昭和40～50年代に市街化が進行した地域、敷地規模が比較的小さく、緑に乏しい住宅地が多く見られる。
- ・マンションや共同住宅が比較的多い。
- ・住宅が無秩序に広がり、景観的まとまりをもたない。

● 計画目標

市街地環境の改善や安全性の向上等につながる、既存樹林、水路、道路、住宅の緑等が結びついた緑の連続するまち並みの形成を図る。

● 緑の創造の方針

- ・特に接道部の緑化に重点を置き、まち並みの緑視を高める。また、困障の改善と生垣化を推進し、市街地の安全性を高める。
- ・市街地を流れる梅田川、岩瀬川、小袋川等の親水化を図るとともに、川沿いを緑化しスプロール市街地における景観軸、環境軸となり防災にも役立つ緑を創造する。
- ・市街地内に残る屋敷林や小規模な既存樹林を保全し、中心市街地からの近景・中景の緑を確保する。
- ・住宅地の石積み、擁壁等の緑化や駐車場の緑化を推進し、緑に乏しい市街地での緑視を高める。
- ・公共施設の緑化により、まち並みの景観ポイントとなる緑を創造する。
- ・鉄道や主要道路から眺められる斜面地上の住宅地に対しては、地形を利用して谷側の開けた場所を緑化し、緑の間から家屋が見えるような車窓景観づくりを行う。
- ・建築物等については、背景をなす丘陵のまち並み景観を確保するよう配慮する。



接道部の緑化を誘導し、まち並みの緑視を高める



背景をなす丘陵の山並み景観を確保する

(5) 農住混在地

● 現況特性

- ・主に第1種住居地域が指定されている。
- ・従来の農業地域に宅地化が無秩序に進行した住宅地
- ・なお、相当量の農地が残されており、宅地化農地の計画的な市街化誘導や農地の有効活用が求められる。
- ・敷地規模の小さいミニ開発が進行しており、雑然とした市街地景観が形成されている。

● 計画目標

計画的な市街地整備を誘導し、農地を活かした緑豊かな住宅地環境の形成を図る。

● 緑の創造の方針

- ・地区計画制度の活用等によってミニ開発を規制し、豊かな緑をもつ住宅地を形成する。
- ・既存農家の良好な屋敷林や生垣を保全する。
- ・手広川、大塚川等の川沿いを緑化し、市街地内での緑の景観軸、環境軸を創造する。
- ・生産緑地を市民農園等として有効に活用する。



生産緑地を保全する



ミニ開発を規制し、住宅地の緑化を誘導する

(6)商業地

(鎌倉駅周辺－若宮大路沿道)

●現況特性

- ・鎌倉駅は鎌倉観光の玄関口であり、若宮大路は古都鎌倉のシンボル景観軸を構成している。
- ・鎌倉駅周辺は若宮大路沿道を含めて商業施設が集積し、地域の中心的役割を担っているが、近年商業施設のビル化（中層化）が進行し、市街地から周囲の山々が見えにくくなってきている。

これは、鎌倉地域の特徴である市街地と周囲の緑との密接な結びつきが認識されにくくなっていることを意味している。

- ・若宮大路は歩道整備が行われているが、多くの人々が利用することから、より安全で快適な歩行者空間づくりが求められている。

●計画目標

鎌倉の玄関口にふさわしい、歴史性と緑を備えた、街の魅力が楽しめるまち並みを形成する。

●緑の創造等の方針

- ・鎌倉駅前については、街のイメージアップにつながる修景効果の高い緑を配し、古都の玄関口にふさわしい景観を創造する。
- ・若宮大路一帯の建築物については、背景の山並みの確保に配慮するとともに、接道部への花物等による連続的な修景を誘導し、シンボル軸である段葛の緑と調和した、明るく魅力あるまち並みを形成する。
- ・道路の緑のグレードアップを図るとともに、小空間を利用した人々の休憩・交流の場となるポケットパークを整備し、街と魅力と活力を高める。

(大船駅周辺)

●現況特性

- ・大船商業地は市街地再開発事業が計画されており、計画にあわせた魅力ある緑の創出や歩行空間の整備が期待される。
- ・鎌倉芸術館の整備等により、多くの人々が訪れるようになってきている。

●計画目標

大船駅周辺の街づくりを進める中で、新しい鎌倉らしさをもった活気あふれるまち並みを形成する。

●緑の創造等の方針

- ・大船商業地については、再開発事業にあわせ、鎌倉芸術館などと結ぶシンボルロードを整備する。
- ・歩行者空間の整備を図るとともに、人々の休憩・交流の場となる小空間を利用したポケットパークを整備する。
- ・地元商店街との連携により、建物壁面のセットバックや建物まわりへの花物等による連続的な緑化を誘導し、人々の集まる魅力あるまち並みを形成する。

(7)沿道商業地

●現況特性

- ・近隣商業地域、第1種及び第2種住居地域が指定されている。
- ・街路樹は乏しく、緑は少ない。
- ・駐車場や店舗・建物が道路に面しており、接道部に緑化可能地をほとんど持たない場所が多く見られる。
- ・背後は住宅地であるが、沿道は沿道型店舗が増えている。

●計画目標

接道部に連続性のある緑を創造し、個性とうるおいのある沿道の市街地景観を創造する。

●緑の創造の方針

- ・協定等により、店舗敷地の接道部を連続的に緑化し、沿道の緑視を高めるとともにまち並みを引き立てる。
- ・道路に面する駐車場の緑化を推進し、沿道沿いのランドマークとなるような緑を育成する。

(8)住工混在地

●現況特性

- ・工業地域、準工業地域、住居地域が指定されている。
- ・大規模な工場と戸建住宅、共同住宅が混在している。
- ・一部に、市街地に向けた豊かな緑をもつ工場が見られる。
- ・また、小規模な事業所が集積する地区では、敷地内の緑化可能地が限られており、緑の少ない環境となっている。

●計画目標

周辺市街地が開かれた、地域環境に配慮した緑をもつ環境の形成を図る。

●緑の創造の方針

- ・大規模工場においては、敷地外周部を中心に緩衝機能やビオトープ空間としての機能をもつ周辺市街地に開けた緑を創造するよう誘導する。
- ・小規模事業所の集積地に対しては、緑地協定等により地区全体の環境改善につながる緑を創造する。
- ・柏尾川沿いの地域に対して、河川を軸とし公共施設や工場敷地をつなぐ避難及びレクリエーション機能を備えた緑の軸を整備する。
- ・事業所敷地内のスポーツ施設等を緑化し、開放を誘導する。
- ・当該地域内における今後の道路緑化では、延焼の防止や避難路機能に配慮した植栽を行う。



事業所敷地の接道部に連続性のある緑を誘導する



協定等により地区の環境改善につながる緑の創造を誘導する

2) 公共施設

(1) 公共建物施設

(庁舎施設)

- ・威圧的なイメージを排し、明るく親しみのある環境を創出する。
- ・市街地内環境の向上につながる緑視効果の高い緑を創出する。
- ・災害時を考慮し、多目的に利用できるオープンスペースを確保する。
- ・接道部を緑化する。



(教育施設)

- ・教育の場に相応しい緑に包まれた環境を創出する。
- ・市街地環境の向上につながる緑をつくる。
- ・ビオトープ空間ともなる自然教育の場をつくる。
- ・防災面に配慮した植栽を行うとともに、避難地機能を確保する。



(公園)

- ・公園のもつ明るさ親しみやすさを演出する。
- ・公園のテーマにあわせた個性を表現する。
- ・緑視効果の高い緑を創出する。
- ・防災面に配慮した緑化や施設整備を行う。



(道路)

- ・周囲の土地利用に合わせた植栽構造や樹種の選定を行い、個性ある道路景観を創出する。
- ・限られた空間を工夫し、緑視効果の高い緑を生み出す。
- ・高木植栽だけでなく、低木や地被類、草花等によって足元空間を修景する。
- ・避難路機能を確保する。
- ・民有地側の接道部の緑化を図る。



(河川)

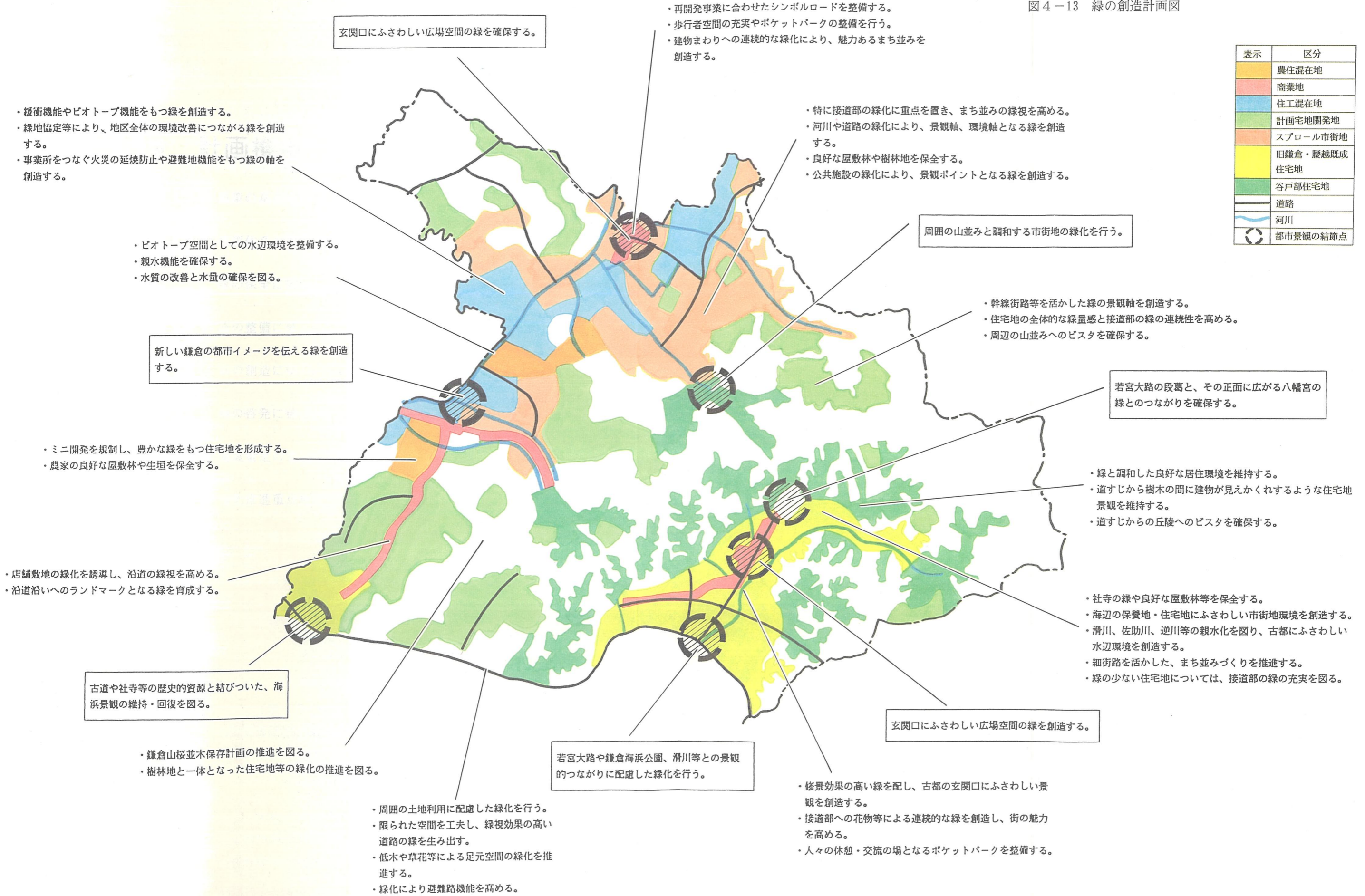
- ・ビオトープ空間としての水辺環境を創出する。
- ・川沿いの家々の緑と結びついた緑の景観軸、環境軸の形成を図る。
- ・親水機能を確保する。
- ・水質の改善や水量の確保を図る。

3) 主要景観ポイント及び結節点

位置	特徴	緑化の方針
1. 滑川橋一带	・鎌倉地域の海との出会いの場	・滑川橋一带、鎌倉海浜公園、若宮大路の結節点周辺については、景観に配慮した植栽等の整備を行う。 ・海との一体性をもった鎌倉海浜公園の再整備を行う。 ・海の景観と一体となった緑化を推進する。 ・親水機能をもつ広場空間を整備する。 ・目印となる植栽を行う。
2. 神戸橋一带	・旧東海道の通る歴史上の重要な場所 ・神戸川、国道134号、海岸線が交わる。 ・周辺に鎌倉の歴史にまつわる社寺や遺跡が分布する。	・古道を活かした歴史の道を整備する。 ・海との出会いの場となる広場を整備する。
3. 深沢地域国鉄跡地周辺地区の柏尾川沿い	・新たな市街地の入口 ・東海道新駅（構想）から延びる道路と柏尾川が交わる。	・新しい鎌倉の都市イメージを伝える広場機能と結びついた緑を創出する。 ・親水機能をもつ河川空間を創造する。
4. 大船駅一带	・鎌倉の玄関口 ・柏尾川と東海道線、横須賀線、モノレール、県道が交わる	・玄関口にふさわしい広場空間の緑を創造する。 ・柏尾川や砂押川沿いの緑化により、良好な水辺景観を創出する。 ・大船駅と鎌倉芸術館をつなぐゾーンでは、地区のシンボルロードにふさわしい緑化を行う。 ・小袋谷笠間線の沿道では、幅の広い歩行者、緑地空間の整備を進める。
5. 北鎌倉駅一带	・鎌倉らしさを印象づける周囲の山並みや円覚寺等をもつ。	・周囲の山並みと調和する市街地の緑化を行い、鎌倉地域の入口をイメージさせる。
6. 鶴岡八幡宮	・鎌倉市のシンボル軸である若宮大路の正面に位置する。 ・鎌倉観光の中心的施設	・段葛と八幡宮の緑の景観を維持する。
7. 鎌倉駅	・鎌倉の玄関口	・玄関口にふさわしい広場空間の緑を創造する。

図4-13 緑の創造計画図

表示	区分
	農住混在地
	商業地
	住工混在地
	計画宅地開発地
	スプロール市街地
	旧鎌倉・腰越既成住宅地
	谷戸部住宅地
	道路
	河川
	都市景観の結節点



玄関口にふさわしい広場空間の緑を確保する。

- ・再開発事業に合わせたシンボルロードを整備する。
- ・歩行者空間の充実やポケットパークの整備を行う。
- ・建物まわりへの連続的な緑化により、魅力あるまち並みを創造する。

- ・緩衝機能やピオトープ機能をもつ緑を創造する。
- ・緑地協定等により、地区全体の環境改善につながる緑を創造する。
- ・事業所をつなぐ火災の延焼防止や避難地機能をもつ緑の軸を創造する。

- ・特に接道部の緑化に重点を置き、まち並みの緑視を高める。
- ・河川や道路の緑化により、景観軸、環境軸となる緑を創造する。
- ・良好な屋敷林や樹林地を保全する。
- ・公共施設の緑化により、景観ポイントとなる緑を創造する。

- ・ピオトープ空間としての水辺環境を整備する。
- ・親水機能を確保する。
- ・水質の改善と水量の確保を図る。

周囲の山並みと調和する市街地の緑化を行う。

新しい鎌倉の都市イメージを伝える緑を創造する。

- ・幹線街路等を活かした緑の景観軸を創造する。
- ・住宅地の全体的な緑量感と接道部の緑の連続性を高める。
- ・周辺の山並みへのビスタを確保する。

若宮大路の段葛と、その正面に広がる八幡宮の緑とのつながりを確保する。

- ・ミニ開発を規制し、豊かな緑をもつ住宅地を形成する。
- ・農家の良好な屋敷林や生垣を保全する。

- ・緑と調和した良好な居住環境を維持する。
- ・道すじから樹木の間に見える建物が見えかくれするような住宅地景観を維持する。
- ・道すじからの丘陵へのビスタを確保する。

- ・店舗敷地の緑化を誘導し、沿道の緑視を高める。
- ・沿道沿いへのランドマークとなる緑を育成する。

- ・社寺の緑や良好な屋敷林等を保全する。
- ・海辺の保嬰地・住宅地にふさわしい市街地環境を創造する。
- ・滑川、佐助川、逆川等の親水化を図り、古都にふさわしい水辺環境を創造する。
- ・細街路を活かした、まち並みづくりを推進する。
- ・緑の少ない住宅地については、接道部の緑の充実を図る。

古道や社寺等の歴史的資源と結びついた、海浜景観の維持・回復を図る。

玄関口にふさわしい広場空間の緑を創造する。

- ・鎌倉山桜並木保存計画の推進を図る。
- ・樹林地と一体となった住宅地等の緑化の推進を図る。

若宮大路や鎌倉海浜公園、滑川等との景観的つながりに配慮した緑化を行う。

- ・修景効果の高い緑を配し、古都の玄関口にふさわしい景観を創造する。
- ・接道部への花物等による連続的な緑を創造し、街の魅力を高める。
- ・人々の休憩・交流の場となるポケットパークを整備する。

- ・周囲の土地利用に配慮した緑化を行う。
- ・限られた空間を工夫し、緑視効果の高い道路の緑を生み出す。
- ・低木や草花等による足元空間の緑化を推進する。
- ・緑化により避難路機能を高める。